

我が小学校自慢の一つです

山武西小学校の大縄跳び大会

山武西小学校恒例の「大縄跳び大会」が、1月30日と2月6日に行われました。大会は、保護者が応援する中、1年から6年生まで全校児童が参加。大縄跳びといっても跳び方は、縄の両端を短く持ち、クラス全員が八の字になって順に跳んでいきます。決められた時間内で、どれだけ多く跳べるかを競う競技です。

昨年赴任し、今回初めて見たという宮野校長先生は「3学期になってから縄跳びの練習を通してクラスがまとまってきたように見えます。また、これだけ上手に大縄跳びができる学校は見たことがありません。西小自慢の一つでしょう」と話していました。



高学年になると、体が大きいので引っ掛からないように、体を丸めて跳び工夫が見られました



初めて見る楽器と音色に、園児たちは目を丸くしていました

全身で感じる“イダキ”の音色

大平保育所

大平保育所では、2月10日、松尾町武野里に住むイダキ演奏者^{すずきせい}の鈴木生さんを招いて、演奏会を行いました。大人の背丈ほどのイダキは、オーストラリアの原住民アボリジニが、祭典や葬式の時に吹く楽器のこと。ユーカリの木を白アリが食べ残してできた空洞を吹いてできた楽器だそうです。吹き始めると、聞いたことのない音色に笑い始める園児もいました。しかし、現地オーストラリアでは音色にそって踊りだすので、自然のことだと鈴木さんは言います。一方先生たちは、床が振動し、体を覆うような深い音色に心地よさを感じていました。鈴木さんは、「これからは他の楽器と合わせて演奏してみたい。そして、たくさんの人に聴かせてあげたい」と話しています。

“スカイ&レインボー”全国優勝

なんごう認定こども園♪

なんごう認定こども園・年長組の園児45人が、亀田製菓(株)が主催するイベント『おせんべい国でダンス！ダンス！』でみごと全国優勝しました。2月12日には、園で授与式を開催し、関係者に機敏な動きと元気いっぱいのダンスを披露しました。

このイベントは、全国から400チーム以上の参加があり、課題曲の「おせんべい国のひと」(サンバ調の曲)にあわせた創作ダンスで審査が実施されました。昨年は、初めて応募し「きらきら賞」を受賞。卒園児にとっては、2度目、最後のチャンスとなりました。宇津木園長先生は、「ダンスを通して園が一つになりました。受賞した子どもたちが卒園した後も続けていきたい」と話しています。



ぼたぼたおばあちゃんとなんごうこども園全員集合!!
チームの名前“スカイ&レインボー”は、そら組と、にじ組からうまれました